



医療と介護の狭間で…

Kさん 94歳 要介護5 認知症があり ほぼ寝たきり状態。娘と二人暮らしで、娘は就労しながら 週2回のデイサービスと訪問介護を利用し、更に2週間のショートステイも利用し 母の介護をしている。

今年の3月末から4月にかけて、ショートステイ利用中に体調が悪くなり、抗生剤の点滴等を行い 帰宅するが、口から食事や水分を摂ることが困難になってしまった。デイサービスを利用しても ほぼ食べれない状況で、これまで 利用していたショートステイも「今の状態では今後 利用はできない」と断られてしまった。困った担当のケアマネが『ケアホーム希望』へ相談してきた。

Kさんの状況を確認するためデイサービスや自宅へ行き、娘からも 話を伺うと「ここ1週間くらい食事が摂れていない状況である」と…。娘に今後のことを相談すると、「急なことでどうして良いのかわからず戸惑っている」と言う。

とにかく 脱水症状が強かったためすぐに訪問診療を導入し、毎日点滴を行い1日かけて口から ゼリー類の 摂取を促した。

口からの水分量は 200mlが やつとであったが、1週間した頃には 600ml程を日中のうちに摂取することが できるようになり、少しずつ職員の声掛けにも 反応が良くなり、活気もみられるようになった。

毎日 味や匂い、何が 一番好んで 食べてくれるのか、内容をいろいろと試している。

今後、どのような状況になるかわからないが、家族と医師、ケアホーム希望の 職員が連携を図り、Kさんらしい生活が自宅で続けていけるよう、そして、娘が安心してこれからも就労しながら在宅生活が送れるよう支援していくことが大切であると考えている。

急なことで
どうしたらいいのか…



Aさん 84歳 要介護3

これまで大病をしたことのない Aさんが、ある日突然、直腸窄孔にて人工肛門増設術を行うこととなった。

認知症もあり、退院後は人工肛門の管理を自分ではできず、これまで利用していたデイサービスからは受け入れを断られ『ケアホーム希望』を利用することとなった。

娘は就労中であり、平日の月曜日～金曜日まで「通い」のサービスを利用し、人工肛門、排便の管理、入浴介助後のパウチ交換等を行っている。

時々、自宅でパウチが外れ、便が漏れ出し 衣服を汚してしまうことがある。そんな時は、看護師が訪問し処置を行う。

このように、高齢者は突然体調の変化があり、医療ニーズが高くなると介護保険のサービスに規制が加わり、行き場がなくなってしまうのが現状である。

看護小規模多機能型居宅介護のような医療ニーズが高くなっても、在宅療養生活を 家族も安心して 過ごせるサービスが 今後はもっと必要ではないか…。



令和



ありがとう/
平成!

よろしく/
令和!

いい匂い

大正生まれの
俺たちも
よろしく～!

昭和生まれの
わたしたちも
よろしく～!

菖蒲湯に入りました～!

今年も
菖蒲湯に入り元気に
過ごすごぞ～!

私は
菖蒲をもらって
家で入るわ

HAPPY
BIRTHDAY
😊

今月の
誕生日会

のぞみ 希望 日誌

私が介護の仕事に携わり 約 17年。これまでに特別養護老人ホームや介護老人保健施設等で働き、夜勤では一晩で 50名もの利用者の食事や清潔、排泄介助をフロアを駆け巡りながら行っていました。朝になり担当した利用者が事故なく安全に過ごせると ホツとする日々でした。もちろん利用者やゆっくり話をする時間はなく「今行くのでちょっと待ってて」が口癖だったように思います。『ケアホーム希望』の夜勤は「泊まり」は 5名までで、医療ニーズの高い利用者も多く、吸引をすることもあります。利用者や向かい合い、ゆっくり話をしたり、ケアをすることができています。

入職して 2年半。利用者を家族や職員と共に看取る経験もしました。利用者が望むように、穏やかに看取ることができた時、介護職としての仕事に誇りを感じ、今も続けられています。

